

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：英語キャリア・コミュニケーション学科

資格：准教授

氏名：佐々木 顕彦

研究分野	研究内容のキーワード
外国語教育学	英語教授法、英語学習法 Computer-Assisted Language Learning Computer-Mediated Communication metalinguistic awareness noticing
学位	最終学歴
博士（外国語教育学），MA in TESOL，修士（教育学），学士（法学）	関西大学 大学院外国教育学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. A Good Read: Developing Strategies for Effective Reading - Book 3 [Japan Edition]（東京：松柏社）	2018年4月1日（刊行予定）	同名の英語版に基づいたリーディング教材。TOEIC 550-650点レベルの学習者を対象としており、様々な読解ストラテジーを学ぶとともに、チャンク（i.e., 2-8単語の英語独特の決まり文句）が習得できるよう構成されている。また、本書では、シリーズ前半（Book 1 & 2）で用いた「リーディング内容をスピーキングやライティングの活動に用いる4技能の統合タスク」を引き継ぎ、さらに高いレベルのタスクを盛り込んでいる。
2. A Good Read: Developing Strategies for Effective Reading - Book 1 [Japan Edition]（東京：松柏社）	2017年4月10日	同名の英語版に基づいたリーディング教材。TOEIC 350-450点レベルの学習者を対象としており、様々な読解ストラテジーを学ぶとともに、チャンク（i.e., 2-8単語の英語独特の決まり文句）が習得できるよう構成されている。また、本書ではリーディング内容をスピーキングやライティングの活動に用いることにより、4技能の統合や英語での表現や発信につなげる学習を可能にしている。
3. Tapestry Reading 3 [Intermediate] 方略で学ぶアクティブ・リーディング3（東京：松柏社）	2010年4月1日	Rebecca Oxford博士が編集を務めるTAPESTRY Readingシリーズを日本人大学生向けに改訂した英語教科書。全4巻中（4レベル）の第3巻（Intermediateレベル）。各ユニットで効果的な Reading strategy を学びながら英文を読み、読解力を高めるとともに、語彙力をつけることを目的とする。
4. Talk with Our Planet - Intensive Reading 「地球の今ー私たちのこれからのために」（東京：松柏社）	2008年4月1日	英国 Harcourt International Education Group刊行の“Planet under Pressure”を日本人大学生向けに改訂した英語教科書。各章は、貧困や汚染といった世界の問題を扱った平均約540語の英文で構成されており、脚注や巻末の語彙文法解説、単語学習用の「重要単語リスト」を掲載し、学習者が語彙習得を通して精読力を高めることを目的とする。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 中学校教諭1種免許状	1990年3月31日	
2. 高等学校教諭1種免許状	1990年3月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Noticing and awareness in learning English as a foreign language: Studies on Japanese junior high school students' e-mail	単	2013年8月	東京：金星堂	本著は、博士論文を修正しさらなる加筆をしたものである。日本人中学生に非同期型 Computer-Mediated Communication 活動（e-mail）を介した Focus on Form 活動や、e-mail tandem language learning

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1 communication activities.				活動を施し、そこで得られた質的・量的データを分析。これらの CMC 活動が学習者の語彙文法学習やメタ言語意識発達に及ぼす効果を検証し議論している。(執筆言語：英語、122頁)
2 学位論文				
1. Make them focus on form: Incorporating e-mail-mediated learning activities into communication-based EFL classrooms in a Japanese junior high school context.	単	2012年9月	関西大学 大学院外国語教育学研究科 博士論文(英語, 甲第460号, 外博第11号)	本論文では、まず、日本の英語教育に定着しなかった Communicative Language Teaching の問題点をレビューし、それに代わるアプローチとして、Computer-Mediated Communication (CMC) を用いた学習活動を提案。その中でも非同期型 CMC (e-mail) を介した Focus on Form 活動や、e-mail tandem language learning に注目。それらの活動を実践研究し、こうした CMC 活動が日本人中学生の語彙文法学習やメタ言語意識発達に及ぼす効果を検証し議論している。(執筆言語：英語、122頁)
3 学術論文				
1. 中学生の英語言語形式への気づきを促す帯活動 “Buzz Talk” の実践 (査読付)	単	2018年4月1日 (刊行予定)	武庫川女子大学「学校教育センター年報」第3号	本論文は、日本人中学生の英語言語形式への気づきを促すコミュニケーション活動 “Buzz Talk” について、その開発とそれを支えた理論(第二言語習得理論)を詳述し、またその実践の過程と結果を報告している。(執筆言語：英語、11頁)
2. RULES vs. REALITY: On subject-verb number agreement.	単	2016年3月	関西学院大学教職教育研究センター紀要「教職教育研究」第21号, 75-83.	本論文は、「Each of 複数名詞」や「Neither A nor B」といった英語の数量詞が主語に用いられた際、英語母語話者が動詞の数や人称をどのように選択しているかを調査した結果を報告している。分析の結果、英語母語話者は必ずしも規範文法 (prescriptive grammar) に則らず、感覚的な使用、つまり記述文法 (descriptive grammar) を適用する傾向もあることがわかった。この結果に基づき、本論文では、日本の英語教育において記述文法を扱う必要性について論じている。(執筆言語：英語、9頁)
3. E-mail tandem language learning. (査読付)	単	2015年2月	Language learning beyond the classroom (Chapter 12, pp. 115-125). NY: Routledge.	筆者が実践した e-mail tandem language learning を紹介し、この活動に参加した過去の生徒の学習体験を描写、その学習効果に言及している。なお、本論文は、教室外で行うことができる様々な英語学習方法を集約する目的で編纂された Language Learning beyond the Classroom (D. Nunan & J. Richards) の一章。(執筆言語：英語、11頁)
4. Focus on form in NS-NNS e-mail communication: Do young Japanese learners notice language forms? (査読付)	単	2013年3月	外国語教育メディア学会関西支部紀要「LET関西支部研究収録」第14号, 23-39.	本論文は、英語母語話者 (NS) との e-mail communication 活動をおこなった日本人中学生の言語形式への気づきを Focus on Form (FonF) の見地から検証した研究を報告している。(執筆言語：英語、17頁)
5. Focus on form via computer-mediated communication: An alternative model to communicative language teaching in EFL contexts.	単	2012年3月	関西学院大学教職教育研究センター紀要「教職教育研究」第17号, 51-60.	本論文は、Communicative Language Teaching に代わる活動として Computer-Mediated Communication (CMC) を介した Focus on Form (FonF) をあげ、その有効性を論じている。(執筆言語：英語、10頁)
6. EFL students' metalinguistic awareness in e-mail tandem. (査読付)	共	2011年2月	WorldCALL: International perspectives on computer-assisted language learning (Chapter 4, pp. 55-69). NY: Routledge.	本論文は、e-mail tandem に従事した日本人中学生のメタ言語意識 (metalinguistic awareness: MLA) の発達について調べた研究を報告している。(執筆言語：英語、15頁) 共著者：SASAKI, Akihiko & TAKEUCHI, Osamu
7. EFL students' vocabulary learning in NS-NNS e-mail interactions: Do they learn new words by imitation? (査読付)	共	2010年1月	ReCALL, 22, 70-82. Cambridge: Cambridge University Press.	本論文は英語母語話者 (NS) と e-mail 活動をおこなう日本人中学生が、NS の e-mail text に含まれる英語語彙をどのように習得するかを社会文化理論の見地から検証した研究を報告している。(執筆言語：英語、13頁) 共著者：SASAKI, Akihiko & TAKEUCHI, Osamu
8. A pilot study on back-channel in an English interview test: Their effect on a Japanese student's utterances and anxiety level. (査読付)	単	2006年11月	関西英語教育学会紀要「英語教育研究」第29号, 45-60.	本論文は、英語面接試験における面接官のあいづちの有無が日本人受験生の発話と不安度に与える影響を検証した研究を報告している。(執筆言語：英語、16頁)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 関西学院大学 国際学部 「ライフデザイン」講座	単	2010年12月～2013年12月	中高英語教員の仕事について	関西学院大学国際学部に在籍し、将来、英語教職を目指す学生に向けた職業教育講義を4回(4年)に渡って行った。英語教員の仕事、職業の意味、そして、将来職業を通して社会に奉仕するため、学生時代に何をすべきかという内容。
2. 学会発表				
1. 明示的文法知識と英語習熟度の関係について—中学3年間の変化—	単	2017年8月	第43回(2017年度)全国英語教育学会島根研	本発表は、中学校英語学習における明示的統語形態的知識の重要性を、ある学年をコホートに3年間縦断

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. 明示的文法知識と英語習熟度の関係について－中学2年生を対象として－	単	2016年8月	究大会（松江：島根大学松江キャンパス） 発表予稿集 pp. 306-307	的に量的解明しようとした関心相関的研究の最終年度の報告である。筆者の仮説の通り、中学1年次から3年次にかけて、明示的知識と習熟度の相関が高まったことが報告された。（発表言語：日本語）
3. 明示的文法知識と英語習熟度の関係について－中学1年生を対象として－	単	2015年8月	第42回（2016年度）全国英語教育学会埼玉研究大会（埼玉県草加市：獨協大学） 発表予稿集 pp. 176-177	本発表は、英語の成績が安定して良い中学生は英語の明示的知識、とりわけ統語や形態素の文法規則を熟知している傾向があるという筆者の経験にもとづき、中学校英語学習における明示的統語形態的知識の重要性を量的に解明しようとした関心相関的研究の2年目の報告である。筆者の仮説の通り、中学1年次から2年次にかけて、明示的知識と習熟度の相関が高まったことが報告された。（発表言語：日本語、ポスター発表）
4. 私立中学校英語教育－継続私立小学校出身者と公立小学校出身者が混在する教室での実践－	共	2015年5月	第41回（2015年度）全国英語教育学会熊本研究大会（熊本：熊本学園大学） 発表予稿集 pp. 432-433	本発表は、英語の成績が安定して良い中学生は英語の明示的知識、とりわけ統語や形態素の文法規則を熟知している傾向があるという筆者の経験にもとづき、中学校英語学習における明示的統語形態的知識の重要性を量的に解明しようとした関心相関的研究の報告である。（発表言語：日本語、ポスター発表）
5. 私立中学校英語教育－継続私立小学校出身者と公立小学校出身者が混在する教室での実践－	共	2015年5月	京都外国語大学主催「より良い英語教育を考える会」2015年度5月例会（京都：キャンパスプラザ京都）	本発表では、小学校で6年間毎日英語授業を受け、非常に高い英語力を持つ継続小学校出身者と、小学5・6年次に週1回程度の英語活動を経験した程度で英語学習はほぼ初心者である公立小学校出身者が混在する勤務校の英語授業の実態と、そこでの工夫について報告した。（発表言語：日本語） 共同発表者：佐々木顕彦（第一発表者）、他3名
6. 英語母語話者とのe-mail communicationにおける日本人英語学習者の言語形式への気づき（2）	共	2013年8月	第53回（2013年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（東京：文京学院大学） 発表要項集 pp. 48-49	本発表では、日本人中学生に英語多読活動を1年間行い、その前後の読解力と語彙力の変化を調べた結果を報告した。（発表言語：日本語） 共同発表者：山田雄一郎・佐々木顕彦（第二発表者）
7. 英語母語話者とのe-mail communicationにおける日本人英語学習者の言語形式への気づき（1）	共	2013年8月	第53回（2013年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（東京：文京学院大学） 発表要項集 pp. 36-37	本発表では、英語母語話者（NS）と日本人中学生のe-mail活動における教師側の介入を検証した研究を報告した。（発表言語：日本語） 共同発表者：佐々木顕彦（第一発表者）・山田雄一郎
8. 英語母語話者とのe-mail communicationにおける日本人英語学習者の気づき	単	2010年8月	第50回（2010年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（神奈川：横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校） 発表要項集 pp. 194-195	本発表では、英語母語話者（NS）とのe-mail活動を行う日本人中学生の言語形式への気づきを促すために施した教師側の介入方法とその効果について報告した。（発表言語：日本語）
9. EFL students' language awareness in an e-mail tandem activity	単	2009年8月	第49回（2009年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（兵庫：流通科学大学） 発表要項集 pp. 302-303	本発表は、英語母語話者との e-mail communication を行った日本人中学生の言語形式への気づきを Focus on Form の観点から検証した研究報告である。（発表言語：日本語、ポスター発表）
10. 英語母語話者のe-mail textが日本人英語学習者の語彙学習に及ぼす足場 (scaffolding) 的役割	共	2008年8月	The 3rd WorldCALL international conference (Fukuoka, Japan) Proceedings pp. 97-99	本発表は、e-mail tandem language learningをアメリカ人高校生と行った日本人中学生のメタ言語意識 (metalinguistic awareness) の発達を検証した研究報告である。（発表言語：英語） 共同発表者：SASAKI, Akihiko & TAKEUCHI, Osamu
11. A pilot study on back-channels in an English interview test: Their effect on a Japanese student's utterances and anxiety level.	単	2007年8月	第47回（2007年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（愛知：名古屋学院大学） 発表論文集 pp. 154-157	本発表は、英語母語話者（NS）とのe-mail communication活動を行う日本人中学生の語彙発達に焦点を当て、NSのe-mail textを足場としてそこに含まれる未習語が習得される過程を検証した研究報告である。（発表言語：日本語）
12. 語彙の授業に用いるデジタル・フラッシュカードに音声合成技術（TTS）を取り込む試み	単	2006年8月	The 4th Asia TEFL international conference (Fukuoka, Japan) Proceedings p. 457	本発表は、英語面接試験における面接官のあいづちの有無が日本人受験生の発話と不安度に与える影響を検証した研究報告である。（発表言語：英語）
13. CALL教室での語彙授業	単	2006年8月	第46回（2006年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（京都：京都産業大学） 発表要項集 p. 95	本発表では、日本人中学生の視認語彙習得を促す目的で制作したデジタル・フラッシュカード（DF）に音声合成技術（Text To Speech, TTS）を取り入れた教材の紹介と、それを用いた学習効果について報告された。（発表言語：日本語、ポスター発表）
14. E-mail tandem language learning	単	2006年6月	外国語教育メディア学会（LET）関西支部中学校高校授業研究部会2006年度6月例会（京都：キャンパスプラザ京都）	本発表では、中学2・3年生の英語語彙授業のために作成した授業シラバス、英熟語集、CAIコースウェアなどの教材を紹介した。（発表言語：日本語）
14. E-mail tandem language learning	単	2005年8月	The 5th convention at	本発表では、発表者が勤務校の選択講座 CALL で実

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
g project: Students' awareness .			FLEAT (Foreign Language Education And Technology) 2005 (Provo, UT, USA) Proceedings p. 28	施した e-mail tandem language learning 活動に参加した生徒の学びと、日本語分析を通じたメタ言語意識の高まりなどが報告された。(発表言語: 英語)
15. Autobiography publishing project design and implementation.	共	2004年4月	The 38th annual convention at TESOL 2004 (Long Beach, CA, USA) Proceedings p. 106	本発表では、英語力の低い移民の adult learners が集う ESL クラスにおいて実践した autobiography project のシラバスと学習者の学びを社会文化理論の観点から報告した。(発表言語: 英語) 共同発表者: SASAKI, Akihiko & SPRINGER, Sarah
16. Meeting the challenges of the practicum experience: Developing computer literacy in a CBET publishing project.	共	2003年4月	The 34th annual state conference at CATESOL (California TESOL) 2003 (Pasadena, CA, USA) Proceedings p. 49	本発表では、英語力の低い移民の adult learners が、computer を用いた autobiography 作成を通して English literacy と同時に computer literacy を高めることを目的とするシラバスとその実践事例が報告された。(発表言語: 英語) 共同発表者: SASAKI, Akihiko & SPRINGER, Sarah
17. 中学生の語彙学習を支援するCAI コースウェア「Vocabulary Lesson」の開発と実践について	単	1999年8月	第39回(1999年度)語学ラボラトリー学会(LA)全国研究大会(東京:早稲田大学)発表要項集 pp.26-27	本発表では、発表者の勤務校の英語語彙授業に導入したCAIコースウェア「Vocabulary Lesson」の制作と、これを用いた授業実践を報告した。(発表言語: 日本語)
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. アクティブ・ラーニングとしてのタンデム言語学習	単	2015年10月	Teaching English Now, Vol. 31, pp. 10-11. 東京:三省堂	三省堂が中学校英語教師を対象に発行する雑誌「Teaching English Now」に、e-mail tandem language learning をアクティブ・ラーニングの観点から紹介、解説した。
2. 英語を使って教科書をどう教えるか(GET本文)	単	2015年1月	「英語で授業」ここがポイント, pp. 8-9. 東京:三省堂	三省堂が中学校英語教師を対象に発行する雑誌「『英語で授業』ここがポイント」に寄稿。原稿には教科書本文を英語を使って指導する流れやポイント、教師の発話例を紹介した。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年4月～現在	ベネッセコーポレーション「学力推移調査(習熟度テスト)」問題・解答原稿校正委員
2. 2006年4月～現在	Asia TEFL
3. 2005年12月～現在	関西英語教育学会(KELES) 理事 学会紀要査読委員
4. 1995年4月～現在	外国語教育メディア学会(LET) 関西支部運営委員 全国理事 学会紀要査読委員